

第3版の発刊に当たり

本書の初版が2015年、改訂版が2019年に発行され、既に初版から10年の歳月が経過した。その間、「青本」として数多くの読者に親しんでいただき、特許情報検索・調査を通じて得られた結果を、企業の知財活動だけではなく、経営・事業や研究開発戦略策定に活用していただけたことは著者として望外の喜びである。

改訂版以降の6年間で特許情報分析を取り巻く環境は劇的に変化した。その中でもとりわけ大きな変化は、2022年11月30日に OpenAI から発表された ChatGPT-3.5をはじめとする生成 AI の登場であろう。著者は ChatGPT-3.5 が登場した時点から、特許情報検索・調査および分析に活用でき、知財業務全般に大きな影響を与えるであろうと予感していたが、直近の生成 AI の技術的進歩は特に目を見張るものがある。本書執筆時点の最新モデルの一つである GPT-5 を用いれば、簡単なプロンプトで先行技術調査を行うことができる。特許をはじめとした知財情報に誰でも簡単にアクセスできる、いわゆる「知財情報の民主化」が始まったといえる。

知財情報に誰でも簡単にアクセスし、活用できる状況が整いつつある点については喜ばしく感じている一方で、知財情報をどのように調べればいいのか、というハウツーの部分については LLM(大規模言語モデル)によって、よりブラックボックス化してしまうのではないかという危惧を抱いている。例えば自動運転車が普及すると、自動車の運転方法を知らなくても目的地にたどり着くことができるように、特許検索・調査においても、生成 AI を使えば特許検索データベースの仕組みや特許分類、また、検索方法などを知らなくても所望の先行文献を見つけることができるようになるであろう。今後、生成 AI が一層進化・普及していく中で本書が果たすべき役割は、生成 AI が出力した回答の真贋や良しあしを見極めるために必要となる特許検索・調査の基礎知識やスキル・テクニックを提供することだと考えている。

著者も50歳が間近に迫ってきて、説教くさくならないように留意しなければと思いつつも、最近読んだ書籍の一節に非常に共感した。

効率よく能力を伸ばそうとして、基本がおろそかになっているケースも散見されます。その意味では「まずは基本を」といった、昔の人のやり方も一理ある。年をとった人の意見も聞きつつ、効率的な方法も取り入れるといったバランスが、やっぱり重要なんでしょう。

(出所：佐山展生・山本昌『生涯現役論』)

生成 AI を用いれば効率的に特許検索・調査ができるようになるのは間違いないが、「まずは基本を」の基本について本書で習得していただきたい。あと数年で50歳を迎える著者からの願望である。そのような基本を習得していただくために、本書は初版、改訂版と「入門書」をうたっているが、400近いページ数で決してやさしい内容ではない。むしろ生成 AI 時代においても特許情報調査の専門家として生き残るために必要となる知識やスキル・テクニックを習得するために必要最小限のボリュームだと考えている。

以上、特に生成 AI の登場という大きな変化を踏まえて、第3版では以下のような点について加筆・修正を行った。

- 初版・改訂版の枠組みは維持し、全体的に内容を修正
- 本書改訂版以降の J-PlatPat 機能改善に対応 (CSV 出力、各種ランキング、履歴演算など)
- 第4章、第6章、第7章は事例を含めて全面的に刷新
- 本文中や脚注、コラムなどに特許検索・調査への生成 AI の利用・活用について適宜追加
- 「赤本」こと『特許情報分析とパテントマップ作成入門 第3版』と同様、「読者サポートウェブサイト」を設置し、検索式データや引用・参考文献を掲載

生成 AI に関する記載も可能な限り追加したが、技術的進化が非常に早く (というよりも早過ぎる)、執筆時点で詳細を記載しても、発行時点で内容的に古くなってしまいう可能性が高いため、あえて具体的なテクニックや利用方法まで踏み込んでいない部分もあるので、あらかじめご了承ください。

ぜひ、本書を読んで、特許情報調査および検索テクニックを習得することで当社グループのモットーである「知財情報を組織の力に[®]」を実現していただきたい。

最後に、第3版の出版に当たり多大なご協力をいただいた発明推進協会の原澤様をはじめとした皆さまに心から感謝の意を表したい。

2025年11月

野崎篤志

読者サポートウェブサイトについて

本書の目的は、読者に特許情報調査・検索式作成のスキルを習得していただくことであるが、紙幅には限界があり、書籍よりデータのほうが使い勝手が良い内容もある。

そこで、以下の内容をウェブサイトから無料でダウンロードできるようにしたので、ぜひ、本書と併せてご活用いただきたい。

1. 検索式・特許検索マトリックス[®]

本書の第6章および第7章に掲載している検索式および特許検索マトリックスをMS Excel ファイル形式で掲載している。ファイルのパスワードは「ep_matrix2025」である。

2. 引用・参考文献リスト

本書で引用・紹介している文献のみならず、読者の参考になると思われる文献（書籍、論文、ウェブサイト等）の詳細な書誌情報を収録。著者名や日付、テーマ等の書誌データでソートや並べ替えができる。本リストは拙著『特許情報分析とパテントマップ作成入門 第3版』のデータと共有しており、適宜アップデートしていく予定である。

著者の note：読者サポートウェブサイトアクセスし、

<https://note.com/anozaki/n/nc85c19c80914>

『特許情報調査と検索テクニック入門 第3版』

のファイルからデータをダウンロードされたい。





目次

第3版の発刊に当たり

改訂版はじめに

初版はじめに

読者サポートウェブサイトについて

序章 特許情報調査に求められる知識・スキル…………… 1

第1章 良い検索式・母集団とは？ …………… 7

COLUMN 「知財業務への生成 AI 活用」……………13

第2章 特許情報調査のための基礎知識 ……………19

2.1 情報の種類と特許情報 ……………20

2.1.1 情報の種類……………20

2.1.2 特許情報とは……………23

2.1.3 特許情報調査の目的と特許情報の二面性……………25

2.1.4 特許情報の特徴……………27

2.1.5 公報種別コードとサーチレポート……………30

2.2 特許情報調査に必要な特許制度の基礎知識 ……………35

2.2.1 特許制度……………35

① 特許要件（新規性・進歩性、先願主義など）……………36

② 出願公開制度および実体審査・審査請求制度の有無 ……………41

③ 実用新案制度の有無 ……………42

④ 特許権の権利状況・存続期間 ……………44

⑤ 特許情報調査に関する日付 ……………44

2.2.2 外国出願ルートとパテントファミリー……………45

2.2.3	公報発行のタイミング	53
2.3	特許調査の種類	58
2.3.1	目的・フェーズ別の種類	58
①	出願前調査・審査請求前調査	59
②	無効資料調査・公知例調査	61
③	侵害予防調査・クリアランス調査・FTO	63
④	技術収集調査	64
⑤	技術動向調査・出願動向調査	64
⑥	権利状況調査・法的状況調査	66
⑦	パテントファミリー調査・対応特許調査	66
⑧	ウォッチング・SDI	67
⑨	主要な調査種類別留意事項	68
2.3.2	検索対象別の種類	68
2.4	検索キー：キーワードと特許分類	70
2.4.1	検索式の構成要素	70
2.4.2	キーワードの種類	71
①	特許公報に記載されているキーワード	71
②	特許庁審査官が利用しているキーワード	73
③	特定データベースで利用されているキーワード	74
2.4.3	特許分類の種類	74
2.4.4	国際特許分類	75
2.4.5	日本独自の特許分類	77
①	FI：ファイル・インデックス	77
②	Fターム	79
③	ファセット・広域ファセット	82
④	FI・Fタームの更新	83
2.4.6	欧米協同特許分類（CPC）	84
COLUMN	「日本語 PCT 出願の調べ方」	91
第3章	特許情報調査に用いるデータベースやツール	97
3.1	特許検索データベースの種類	98

3.2	特許検索データベースの選択	102
3.3	特許検索データベースの検索メニューと演算子	104
3.3.1	検索メニュー	104
①	番号検索	104
②	構造化検索・メニュー検索	105
③	コマンド検索	105
④	概念検索	106
⑤	ステータス検索・経過情報検索	108
⑥	引用・被引用検索	109
⑦	構造型検索	112
⑧	画像検索	113
3.3.2	演算子	113
①	基本的な演算子：AND、OR、NOT	114
②	近接演算子	115
③	トランケーション	117
COLUMN	「IPC・FI 同士の AND 演算は邪道？」	120

第4章	番号からの特許情報調査	127
4.1	J-PlatPat での調査	129
4.2	パテントファミリー調査	139
4.3	米国特許の番号調査（権利状況・移転状況の確認）	145
4.4	欧州特許の番号調査（欧州登録特許の移行状況の確認）	153
4.5	WO 特許の番号調査（国際公開特許の移行状況の確認）	157
COLUMN	「近傍検索の文字数・ワード数設定」	162

第5章	企業名・発明者からの特許情報調査	165
5.1	企業名からの調査	166
5.1.1	出願人・権利者の特定	166
①	社名変更または吸収・合併	166
②	片仮名社名からアルファベット社名へ変更	167
③	外国企業の出願人名の表記揺れ	168

④ 知財管理会社を通じての出願	169
5.1.2 J-PlatPat での調査	171
5.1.3 外国特許データベースでの調査	172
5.2 発明者名からの調査	176
5.2.1 発明者の特定	176
5.2.2 J-PlatPat での調査	176
5.2.3 外国特許データベースでの調査	179
5.3 米国特許の権利譲渡調査	182
COLUMN 「NOT 演算を用いた網羅的な同義語抽出方法」	187
第 6 章 関連性マトリックスと特許検索マトリックスの利用方法 ...	191
6.1 関連性マトリックスと特許検索マトリックス	192
6.2 特許情報調査のステップと検索式構築フロー	195
6.3 ステップ 1：調査対象テーマを明確化する	196
6.4 ステップ 2：調査方法を検討する	199
6.5 ステップ 3：検索キー「キーワード」を探す	200
6.5.1 予備検索と同義語検討ルールの適用	201
6.5.2 キーワード選択支援ツールを利用	204
6.5.3 類語辞典を利用	207
6.5.4 生成 AI を利用	208
6.6 ステップ 4：検索キー「特許分類」を探す	210
6.6.1 予備検索	211
6.6.2 ランキングから FI・F タームを探す	212
6.6.3 特許・実用新案分類照会 (PMGS) で分類定義を確認する ...	217
6.6.4 特許・実用新案分類照会 (PMGS) から探す	220
6.6.5 生成 AI を用いて特許分類を探す	222
6.6.6 特許分類選択時の留意点	225
6.7 その他の検索キーの探し方	227
6.8 ステップ 5：検索式の組み立て	228
6.8.1 関連性マトリックスを踏まえた検索式の作成方針	228
6.8.2 検索式の基本パターン	230

6.8.3	特許検索マトリックスの使い分け	233
6.8.4	特許検索マトリックスからの検索式構築と履歴演算	238
6.8.5	検索式の評価・修正	242
6.9	生成 AI を用いた特許検索式作成	246
COLUMN	「英語キーワード・CPC を探す」	254

第 7 章 特定テーマに基づいた特許情報調査 259

7.1	検索式作成事例	260
7.1.1	先行技術調査：電動歯ブラシの非接触充電	261
7.1.2	先行技術調査（課題ベース）：汚れにくい自動車用ガラス素材	274
7.1.3	技術収集調査：色素増感太陽電池を組み込んだ発電可能な建材	293
7.1.4	無効資料調査：AI を用いた特許文献検索システム	308
7.1.5	侵害予防調査：スマホを用いて予約する 小型モビリティのシェアリングサービス	316
7.1.6	技術動向調査：リチウムイオン電池部材のリサイクル・再利用	326
7.2	検索式作成パターンまとめと応用	332
COLUMN	「検索テーマが課題・目的の場合のアプローチ」	335

第 8 章 公報の読み方と調査結果のまとめ方 339

8.1	公報を読むための基礎知識	340
8.1.1	公報の構成と発明の理解	340
8.1.2	調査種類別の公報の読み込み範囲	342
8.2	公報の読み方	345
8.2.1	公報のスクリーニングと精査	345
8.2.2	公報のスクリーニング手順	348
8.2.3	CSV リストのダウンロード	351
8.3	外国特許公報の読み方	354
8.3.1	外国特許公報を査読する際のアプローチ	354
8.3.2	和文抄録の活用	355
8.3.3	機械翻訳の活用	357
8.4	調査結果のまとめ方	360

8.4.1	調査報告書に記載すべき事項	360
8.4.2	出願前調査	361
8.4.3	無効資料調査	362
8.4.4	侵害予防調査・クリアランス調査 (FTO)	364
8.4.5	技術収集調査および技術動向調査	365
8.5	生成 AI を用いた公報査読と調査結果のまとめ方	367
8.5.1	ChatGPT を用いた公報査読と要約	367
8.5.2	ChatGPT を用いた公報内容の図解	369
8.5.3	ChatGPT を用いた調査結果のまとめ	369
8.5.4	NotebookLM を用いた公報群の査読	370
COLUMN	「意匠調査データベースと検索テクニック」	373
第9章	特許情報調査スキルを磨くために	381
9.1	特許情報業務の今後	382
9.2	セミナー・研究会に参加する	383
9.3	文献・カンファレンス資料をウォッチングする	384
9.4	特許検索競技大会・Patent Olympiad に出場する	385
9.5	他者の検索式を評価する	388
9.6	他者に検索式作成方法を教える	388
9.7	生成 AI の最新動向を把握する	389
9.8	その他	390
COLUMN	「生成 AI 時代における業務のすみ分けと人材育成」	391
用語索引		395

おわりに

著者プロフィール